

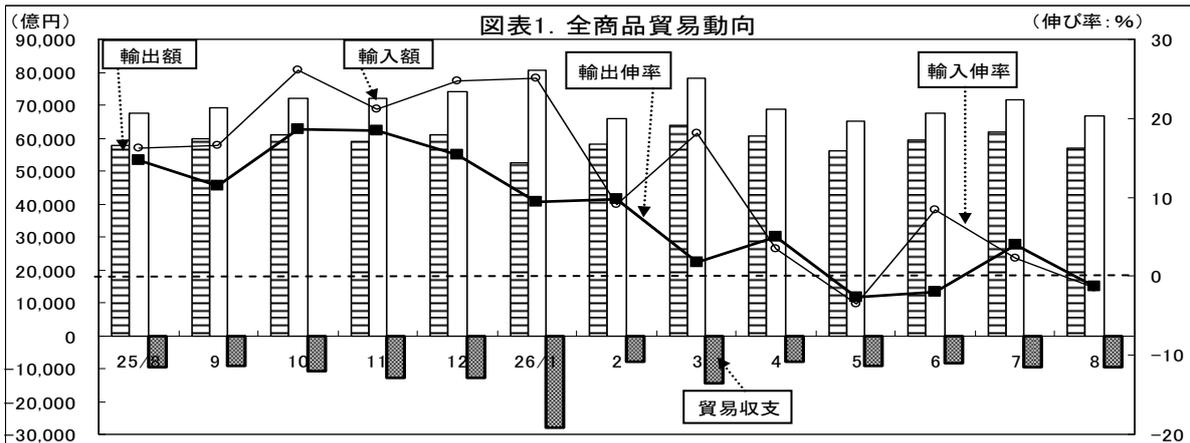
# 最近の機械貿易動向(8月)～機械輸出伸び率再びマイナス～

日本機械輸出組合 2014.10.16.

平成26年8月の機械輸出額は3兆6,017億円、対前年同月比0.8%減と再びマイナスとなった。これは、①営業日が4.6%の減少要因となったこと、②北米、その他地域、ASEAN・南アジア、韓国・台湾向けがマイナスとなったこと、③機械輸出額の約32%を占める自動車が増えなくなったことなどによる。為替・営業日が2.4%の減少要因だったことを考慮すると、実質的な伸び率は1.6%増と2ヶ月連続でプラスとなった。9月も為替が増加要因となり、営業日も1日多いことから9.0%の増加要因となる。仮に8月の機械輸出額の実質的伸び(1.6%増)が続くとすれば、前年比10.7%増と予想されたが、10月8日発表の貿易統計速報によれば9月上中旬の全商品輸出は7.5%増であった。

## 1. 全商品貿易動向～輸出、輸入とも再びマイナス成長に～

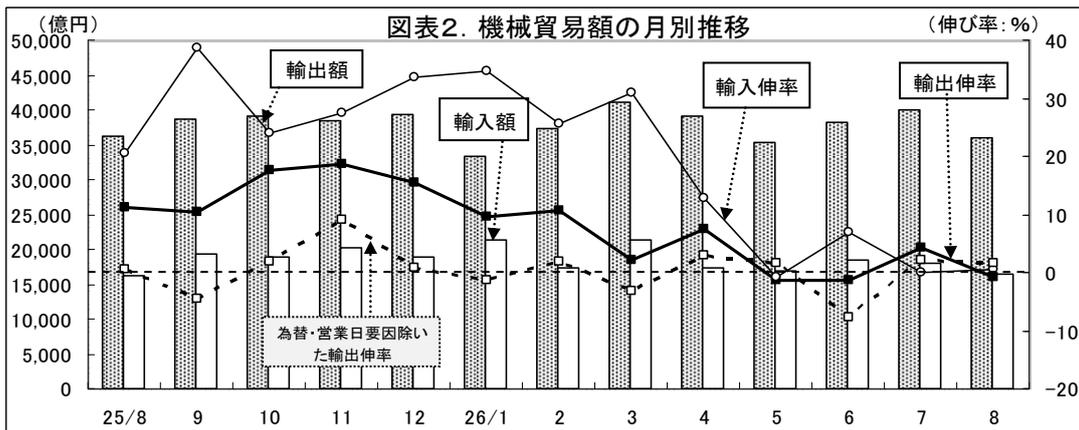
- 平成26年8月の全商品輸出額は5兆7,063億円、前年同月比(以下同じ)1.3%減と再びマイナスとなった(7月3.9%増)。これは、営業日が前年より1日少なかったこと、円安要因が縮小したこと、全輸出額の21%を占める輸送用機器(3.2%減)、18%の電気機器(0.8%減)、11%のプラスチック・有機化合物等化学製品(5.4%減)が減少したためである。
- 輸入額は6兆6,560億円、1.4%減と再びマイナス成長となった(7月2.3%増)。これは、営業日が1日少なかったこと、円安要因が縮小したこと、全輸入額の約33%を占める原油等鉱物性燃料(2.6%減)をはじめ、12%の電気機器(2.4%減)、鉄鉱石・非鉄金属鉱等原料品(7.5%減)の伸び率がマイナスとなったことによる。
- この結果、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は9,497億円の赤字となり、8月としては、1979年以来、昨年に次ぐ大きさの赤字となった(昨年8月は9,714億円の赤字)。



## 2. 機械貿易動向

### (1) 機械輸出入動向～機械輸出は再びマイナス、輸入はプラス成長へ～

- 全商品輸出額の約63%を占める8月の機械輸出額は3兆6,017億円、0.8%減と再びマイナス成長となり(7月4.2%増)、輸出額の水準は、リーマンショック前(平成20年8月)と比べると80%となり、前月に比べて0.5ポイント回復した(7月79.5%)。
- 一方、全商品輸入額の25%を占める機械輸入額は1兆6,382億円、0.6%増とプラスとなった(7月0.1%減)。また、輸入額は、17カ月連続してリーマンショック前の水準を上回っている。

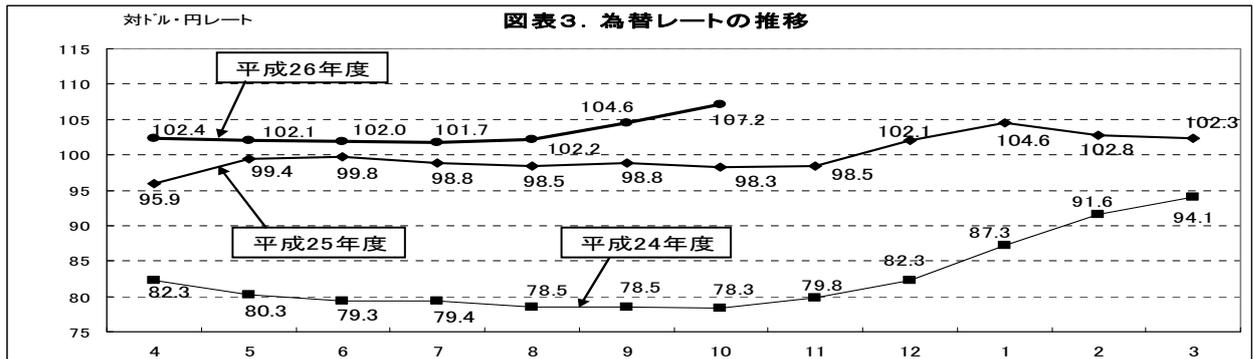


(2) 為替動向・営業日～8月は2.4%の減少要因、9月は9.0%の増加要因～

1) 8月は1ドル=102.2円と円高是正が弱まり、前年に比べ3.8%の円安となった。また、対ユーロも137.1円と前年に対して5.1%の円安となり、合わせて約2.3%の為替増加要因となった。営業日は前年より1日少ないため、4.6%の減少要因となり、合計で2.4%の減少要因となった。8月の輸出額は0.8%減であったことから、実質的伸び率は1.6%増と2ヶ月連続でプラスとなった(7月2.2%増)。

2) 9月は1ドル=104.6円と前年に比べ5.9%の円安、対ユーロでは139.9円で前年に対し6.5%の円安となり、合わせて約3.5%の為替増加要因となった。営業日は前年より1日多いため、5.3%の増加要因となり、合計で9.0%の増加要因となる。

3) 10月は、対ドルが10月15日17:00時点の107.2円とすれば、前年に比べて9.1%の円安、また、対ユーロも135.6円と2.0%の円安となり、合わせると4.9%の為替増加要因となる。営業日は前年と同じため、合計で4.9%の増加要因となる。



(3) 地域別動向～EU、中国向けは増加、ASEAN・南アジア、その他地域、北米、韓国・台湾向けは減～

1) マイナスとなったのは、①機械輸出額の9.3%を占める韓国・台湾向けで、産業機械(15.8%減)、電子デバイス(11.2%減)が大幅にマイナスとなって5.8%減となり、②23.3%と最大輸出先の北米向けでは、航空機(19.6%増)、建設機械(22.4%増)等が増加したものの、全体の45%の自動車(9.7%減)、産業機械(4.5%減)等がマイナスとなって4.5%減となった。③16.9%を占めるその他地域向けでは、アフリカ(12.2%減)、ロシア東欧等(8.8%減)、大洋州(7.9%減)向けが減少し、機種では全体の61%を占める自動車(2.3%減)をはじめ、船舶(18.2%減)等が減少して1.7%減となり、④15.6%を占めるASEAN・南アジア向けでは、パキスタン(38.0%増)、ベトナム(27.8%増)が二桁増となったものの、インドネシア(17.5%減)、タイ(10.4%減)がマイナスとなり、業種では、全体の22%を占める自動車(12.2%減)、民生用電子機械(4.7%減)がマイナスとなり、1.0%減となった。

2) 他方、プラスとなったのは、①機械輸出額の11.6%を占めるEU向けで、全体の31%を占める自動車(5.4%増)がプラスを維持し、産業機械、軽機械(ともに12.6%増)、建設機械(65.3%増)等が大幅にプラスとなって7.3%増となり、②23.3%と米国に並んで最大輸出先となった中国向けは、全体の16%を占める自動車(5.5%増)、電子デバイス(6.1%増)、重電気機械(15.2%増)等が伸びて2.1%増となった。

3) また、リーマンショック前の平成20年8月の地域別輸出額と比較すると、全体では80%、ASEAN・南アジア、中国、北米向けが90%台、韓国・台湾向けが70%台、その他地域向けが60%台、EU向けが50%台となった。

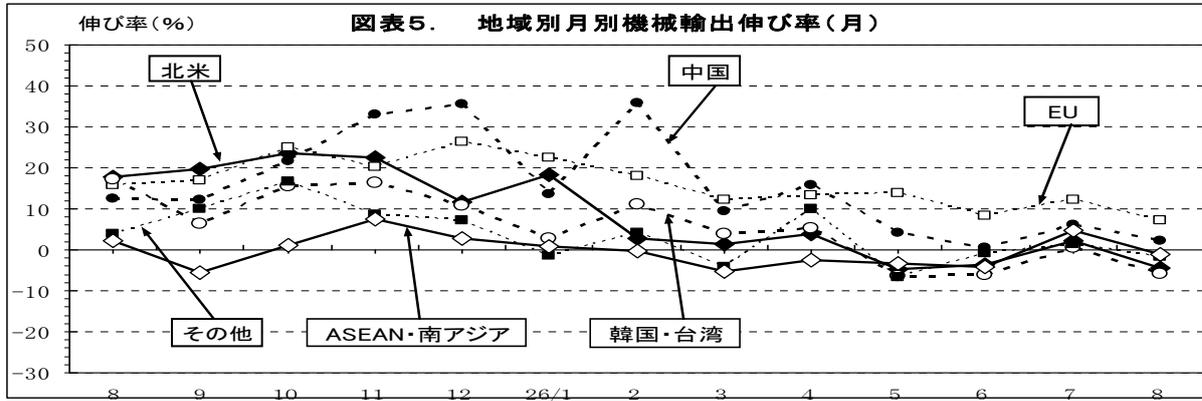
なお、リーマンショック前のGDPと比較してみると、全世界のGDPは2007年から2013年にかけてドルベースで31%増加した一方、日本の輸出額は23%減少(ドルベースでは6%減)となっている。因みに世界の輸入額はドルベースで33%伸びている。これを中国についてみると、GDPが2.55倍となっている一方で日本からの輸出は9%減(ドルベースでは10%増)であった。さらに中国の輸入額の伸び(ドルベース)は2.03倍であった。(中国の輸入額に占める日本の割合は12.9%から8.1%に低下)。

図表4. 最近の地域別機械輸出動向

(単位:億円)

	2014/6			2014/7			2014/8			対08年 8月比	GDP '13/'07対比
	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア		
全世界計	39,981	▲1.4	100.0	39,981	4.2	100.0	36,017	▲0.8	100.0	0.80	1.31
北米	9,288	▲3.6	23.2	9,511	2.3	23.8	8,407	▲4.5	23.3	0.91	1.17
中国	8,110	0.6	20.3	8,673	6.2	21.7	8,404	2.1	23.3	0.95	2.55
ASEAN・南アジア	5,923	▲4.3	14.8	6,000	4.8	15.0	5,615	▲1.0	15.6	0.96	1.67
EU	4,274	8.3	10.7	4,567	12.1	11.4	4,168	7.3	11.6	0.59	1.01
韓国・台湾	3,463	▲6.2	8.7	3,503	0.6	8.8	3,332	▲5.8	9.3	0.75	1.19
その他	8,923	▲0.9	22.3	7,727	1.4	19.3	6,091	▲1.7	16.9	0.64	1.43

は、2ヶ月連続で前年比10%以上プラス。



図表6. 韓国・台湾/ASEAN・南アジア/その他地域向け機械輸出の推移(月別)

国名	2014/5		2014/6		2014/7		2014/8	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
韓国	1,726	▲ 4.0	1,712	▲ 4.9	1,679	▲ 12.6	1,675	▲ 15.2
台湾	1,613	▲ 8.8	1,752	▲ 7.5	1,823	▲ 16.9	1,657	▲ 5.9
<b>ASEAN・南アジア</b>								
タイ	1,516	▲ 13.0	1,610	▲ 20.7	1,627	▲ 14.1	1,585	▲ 10.4
シンガポール	754	▲ 6.5	977	▲ 6.5	952	▲ 18.0	933	▲ 9.99
インドネシア	719	▲ 13.0	871	▲ 8.8	818	▲ 8.8	737	▲ 17.5
マレーシア	675	▲ 7.3	737	▲ 5.2	730	▲ 10.6	639	▲ 1.5
フィリピン	514	▲ 3.0	588	▲ 13.5	600	▲ 13.6	504	▲ 0.5
ベトナム	459	▲ 14.5	447	▲ 16.2	521	▲ 23.0	540	▲ 27.8
インド	336	▲ 3.2	347	▲ 13.3	372	▲ 4.4	365	▲ 0.0
パキスタン	118	▲ 31.2	108	▲ 11.0	114	▲ 33.1	96	▲ 38.0
<b>その他地域</b>								
中南米	2,079	▲ 22.7	2,419	▲ 2.0	2,307	▲ 21.3	1,934	▲ 5.1
中近東	1,645	▲ 14.2	1,789	▲ 12.3	2,068	▲ 26.7	1,499	▲ 4.8
大洋州	912	▲ 11.3	1,081	▲ 18.6	1,257	▲ 7.3	1,048	▲ 7.9
ロシア東欧等	1,056	▲ 5.6	1,165	▲ 8.3	1,230	▲ 1.8	1,058	▲ 8.8
アフリカ	595	▲ 7.2	608	▲ 12.8	868	▲ 21.2	564	▲ 12.2

は、2ヶ月連続で前年同月比プラス(10%以上)

(4) 業種別動向～21業種中7業種がマイナス、自動車、産業機械の上位2機種がマイナス～

- 業種別では、全21業種中7業種がマイナスとなり、前月より1業種減少した。業種では、全体の約32%を占める自動車(4.3%減)、17%の産業機械(3.0%減)の上位2機種がマイナスとなったが、工作機械(31.1%増)、航空機(26.5%増)、農業機械(21.5%増)は20%以上の成長となった。
- この結果、リーマンショック前の水準を超えたのは航空機、医療機械、工作機械、繊維機械、光学機械、ベアリングの6業種で、他方、電子計算機、民生用電子機械が40%台、船舶、産業車両、通信機械が50%台の低い水準にある。

図表7 上位21業種の輸出額の動き

(単位:億円、%)

機種名	2014/6			シエア	2014/7			シエア	2014/8			対08/8比
	金額	伸び率	シエア		機種名	金額	伸び率		機種名	金額	伸び率	
自動車	13,365	▲ 0.8	34.9	自動車	14,477	▲ 6.5	36.2	自動車	11,620	▲ 4.3	32.3	0.80
産業機械	6,341	▲ 3.0	16.6	産業機械	6,462	▲ 0.6	16.2	産業機械	6,228	▲ 3.0	17.3	0.84
電子デバイス	2,872	▲ 8.7	7.5	電子デバイス	3,119	▲ 0.6	7.8	電子デバイス	3,234	▲ 1.0	9.0	0.74
軽電気機械	1,935	▲ 2.2	5.1	重電気機械	2,072	▲ 11.7	5.2	重電気機械	1,931	▲ 3.8	5.4	0.95
重電気機械	1,885	▲ 2.7	4.9	軽電気機械	2,056	▲ 3.9	5.1	軽電気機械	1,906	▲ 2.7	5.3	0.78
軽機械	1,502	▲ 0.3	3.9	軽機械	1,586	▲ 0.3	4.0	軽機械	1,529	▲ 8.0	4.2	0.90
民生用電子機械	1,415	▲ 13.0	3.7	光学機械	1,480	▲ 11.9	3.7	光学機械	1,481	▲ 2.3	4.1	1.11
光学機械	1,399	▲ 3.8	3.7	民生用電子機械	1,460	▲ 6.3	3.7	民生用電子機械	1,513	▲ 10.8	4.2	0.46
船舶	1,390	▲ 10.8	3.6	船舶	1,350	▲ 19.9	3.4	船舶	836	▲ 6.2	2.3	0.53
建設機械	1,020	▲ 3.9	2.7	工作機械	993	▲ 41.3	2.5	工作機械	977	▲ 31.1	2.7	1.28
工作機械	994	▲ 44.8	2.6	建設機械	980	▲ 3.0	2.5	建設機械	922	▲ 11.5	2.6	0.65
航空機	704	▲ 18.1	1.8	航空機	690	▲ 22.8	1.7	航空機	674	▲ 26.5	1.9	1.86
通信機械	488	▲ 5.0	1.3	通信機械	459	▲ 14.6	1.1	通信機械	494	▲ 1.8	1.4	0.57
電子計算機	460	▲ 5.9	1.2	ベアリング	417	▲ 6.3	1.0	ベアリング	383	▲ 5.3	1.1	1.09
医療機械	409	▲ 5.3	1.1	電子計算機	408	▲ 11.4	1.0	電子計算機	431	▲ 8.3	1.2	0.43
ベアリング	399	▲ 0.6	1.0	医療機械	405	▲ 23.0	1.0	医療機械	374	▲ 6.2	1.0	1.50
陸用内燃機関	358	▲ 3.2	0.9	陸用内燃機関	367	▲ 11.3	0.9	陸用内燃機関	341	▲ 4.6	0.9	0.92
繊維機械	209	▲ 1.2	0.5	農業機械	191	▲ 23.9	0.5	農業機械	182	▲ 21.5	0.5	0.97
農業機械	208	▲ 22.2	0.5	繊維機械	179	▲ 20.9	0.4	繊維機械	201	▲ 3.6	0.6	1.24
産業車両	134	▲ 3.1	0.4	産業車両	129	▲ 0.9	0.3	産業車両	112	▲ 4.5	0.3	0.53
鉄道車両	40	▲ 50.9	0.1	鉄道車両	56	▲ 45.9	0.1	鉄道車両	73	▲ 27.1	0.2	0.82
21業種合計	37,528		98.1	21業種合計	39,337		98.4	21業種合計	35,442		98.4	0.79

は2ヶ月以上連続で10%以上増加。・産業機械: 半導体製造装置、印刷・製本機械、風水力機械、タービン  
 ・民生用電子機械: デジカメ、TV、部品 ・電子計算機: パソコン、HDD・プリンター等部品 ・軽機械: 試験・検査機、理化学用機器  
 ・軽電気機械: 白物家電、電子計測器、配電機器、電池 ・光学機械: その他の光学機器(半導体検査装置、レーザー等)、カメラ部品

(5) 機種別動向～工作機械、航空機、農業機械等大幅増、原動力機械、鉄道車輛等大幅減～

1) 10%以上の伸び率を示した機種は、①中国、北米、ASEAN・南アジア向け**工作機械**(31.1%増)、②北米向け**航空機**(26.5%増)、③北米、EU向け**農業機械**(21.7%増)、④北米、EU向け**TV**(18.8%増)、⑤北米、中国向け**電動機**(18.2%増)、⑥北米、中国、EU向け**産業用ロボット**(17.7%増)、⑦中国、北米、EU向け**写真機の部分品・附属品**(14.9%増)、⑧中国向け**通信機械部分品**(12.8%増)、⑨EU、中国、北米向け**理化学用機器**(12.0%増)、⑩北米、その他地域向け**建設機械**(11.5%増)であった。

2) 一方、最も落込み幅が大きいのが、原動力機械(29.1%減)、鉄道車輛(27.1%減)、デジカメ・ビデオ(26.1%減)等であった。

図表8. 伸び率上位機種(月50億円以上、前年比伸び率10%以上、10機種以内) (単位:億円)

2014/6			2014/7			2014/8		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
工作機械	994	44.8	鉄道車輛	56	45.9	工作機械	977	31.1
TV	113	33.0	工作機械	993	41.3	航空機	674	26.5
通信機械部分品	179	28.4	通信機械部分品	174	38.6	農業機械	182	21.7
農業機械	208	22.2	産業用ロボット	131	31.1	TV	100	18.8
原動力機械	438	18.6	理化学用機器	404	29.5	電動機	147	18.2
航空機	704	18.1	受信変換・その他送受信	137	26.6	産業用ロボット	118	17.7
受信変換・その他送受信	150	13.0	農業機械	191	23.9	写真機の部分品・附属品	160	14.9
理化学用機器	412	12.9	その他の重電気機器・部分品	566	23.1	通信機械部分品	207	12.8
電池	231	11.2	医療機械	405	23.0	理化学用機器	391	12.0
機種合計	3,429	* 9.0%	航空機	690	22.8	建設機械	922	11.5
			機種合計	3,747	* 9.4%	機種合計	3,878	* 10.8%

は、2ヶ月連続で上位機種 \* 機種合計の%は輸出額に占める割合  
 通信機械部分品: ゲートウェイ、リピーター等 受信変換・その他送受信: ルーター、LANスイッチ等  
 理化学用機器: 物理・化学分析用機器の部品、電気式分析機器等 電動機: 業務用モーター

図表9. マイナス伸び率上位機種(月10億円以上、10%減以上、10機種以内) (単位:億円)

2014/6			2014/7			2014/8		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
鉄道車輛	40	▲ 50.9	半導体製造装置	892	▲ 26.7	原動力機械	382	▲ 29.1
デジカメ・ビデオ	361	▲ 29.4	デジカメ・ビデオ	364	▲ 24.7	鉄道車輛	73	▲ 27.1
半導体製造装置	991	▲ 13.9	繊維機械	179	▲ 20.9	デジカメ・ビデオ	408	▲ 26.1
電気・電子計測器	415	▲ 12.8	船舶	1,350	▲ 19.9	半導体製造装置	903	▲ 14.7
写真機の部分・附属品	143	▲ 12.7	印刷・製本機械	819	▲ 12.1	発電機	81	▲ 11.9
金属加工機械	286	▲ 11.2	電子計算機	408	▲ 11.4	機種合計	1,847	* 5.13%
船舶	1,390	▲ 10.8	機種合計	4,012	* 10.5%			
機種合計	3,626	* 9.5%						

は、2ヶ月連続でマイナス上位10位内 \* 機種合計の%は輸出額に占める割合

(6) 機械輸入動向～再びプラス成長。電子デバイス、自動車部品、乗用車等が増加～

1) 8月の機械輸入伸び率は0.6%増と再びプラスとなった。これは、電子計算機(3.0%減)、航空機(2.3%減)、携帯電話(48.7%減)がマイナスになったものの、主要機械輸入機種である電子デバイス(2.9%増)や自動車部品(11.1%増)、乗用車(6.0%増)等が増加したことによる。

2) なお、輸入額が輸出額を上回っている機種は電子計算機、航空機、白物家電、医療機械、受信変換・その他送受信、携帯電話、時計、通信機械部分品、TVとなっている。

3) 地域別機械輸入額は、全体の37%を占める中国(4.0%減)、北米(13.5%増)、EU(2.0%増)、ASEAN・南アジア(2.1%増)、韓国・台湾(0.4%増)、その他地域(11.6%減)の順であった。

図表10. 機械輸入額上位12機種 (単位:億円、%)

2014/6				2014/7				2014/8			
機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア
電子デバイス	2,300	5.0	12.5	電子デバイス	2,184	▲ 1.1	12.1	電子デバイス	2,212	2.9	13.5
電子計算機	1,874	4.5	10.2	電子計算機	1,833	▲ 7.5	10.2	電子計算機	1,552	▲ 3.0	9.5
携帯電話	1,027	▲ 18.6	5.6	自動車部品	1,061	10.4	5.9	航空機	970	▲ 2.3	5.9
自動車部品	1,022	31.7	5.6	航空機	949	▲ 0.1	5.3	自動車部品	961	11.1	5.9
白物家電	906	4.5	4.9	乗用車	836	▲ 21.5	4.6	乗用車	934	6.0	5.7
航空機	884	▲ 23.7	4.8	白物家電	821	▲ 5.1	4.6	白物家電	566	▲ 7.7	3.5
乗用車	699	▲ 12.0	3.8	医療機械	595	2.5	3.3	医療機械	553	1.1	3.4
医療機械	577	6.5	3.1	配電機器	519	▲ 2.0	2.9	受信変換その他送受信	520	4.6	3.2
受信変換・その他送受信	531	29.4	2.9	受信変換その他送受信	498	▲ 3.1	2.8	配電機器	452	▲ 6.3	2.8
配電機器	528	14.4	2.9	コンデンサー等部分品	373	▲ 0.7	2.1	携帯電話	359	▲ 48.7	2.2
コンデンサー等部分品	381	21.3	2.1	携帯電話	357	▲ 44.7	2.0	コンデンサー等部分品	341	▲ 6.0	2.1
半導体製造装置	357	219.9	1.9	その他の配電制御装置	342	3.2	1.9	その他の配電制御装置	326	7.0	2.0
12機種合計	11,086		60.3	12機種合計	10,368		57.6	12機種合計	9,746		59.5

は対前年比が2ヶ月連続で10%以上増加。白物家電: 民生用電気機械